

第 2 回少人数教育推進検討委員会（令和 2 年 1 1 月 1 0 日）の概要

議 事 I 25 人学級の導入について

〈委員の主な意見〉

- 小学校 3、4 年における少人数教育の導入について
 - ・ 総論として、ある程度の規模の集団が必要ということは理解できる一方で、一人一人に対応したきめ細かな指導については、少人数が望ましく、具体的な数字については議論が必要である。
 - ・ 小学校 3、4 年生では、社会性や協調性、たくましさを育成していくことは大切であり、主体的・対話的で深い学び等、今求められている教育には、ある程度の人数が必要である。
 - ・ 小学校 1、2 年生に 25 人学級を導入した際の検証が必要である。
 - ・ 少人数にした方が児童生徒にきめ細かな指導ができるのではないか。また、先生の多忙化解消や働き方改革の観点も重要である。
 - ・ 小学校 3、4 年生は集団で活動することが大事であるが、一方で、ギャングエイジと呼ばれる時期であり、落ち着いた雰囲気学級づくりをすることが大切である。
 - ・ 小学校 3 年生進級時に学級数が減った場合、学級経営が大変だという声もある。
 - ・ 新型コロナウイルス対策において、ソーシャルディスタンスをとる観点も大切である。
 - ・ 国の少人数教育に関わる動向を注視していく必要がある。 など

議 事 II アクティブクラスについて

〈委員の主な意見〉

- ・ アクティブクラスの運用では、午後から教員がいなくなるなど、厳しい声が現場にはあるので、解消してほしい。
- ・ 学校現場でも意見は分かれるところであり、教室の確保に対応できるので、アクティブクラスの存続を望む声がある一方で、アクティブクラスを解消して、より少人数での教育を進めた方がよいという両方の声がある。
- ・ アクティブクラスのデメリットを補う方法も考え、ベストミックスの形での運用を模索するのがよいのではないか。 など

※小学校 3 年生以降の少人数教育の導入とアクティブクラスについては、次回も引き続き検討する。